

III. 臨時記号、調号および拍子記号

(表 3)

A 臨時記号

表 3 A の記号

♯	シャープ	♭	フラット
♯♯	ダブルシャープ	♭♭	ダブルフラット
♮	ナチュラル		
♯♯	♭♭		音符の上や下に付いた臨時記号

3-1

シャープ、フラット、ナチュラル記号は、音符や音程など必要なものの前に記される。臨時記号と音符は、音列記号以外のもので離してはならない。

3-2

墨字で、臨時記号が音符の上や下に付いているならば、点字では 6 の点を前につける。

3-3

臨時記号による 4 分の 1 音の変化については、「現代音楽の表記法」で取り上げる。 1 3-1 6 節を参照せよ。

B 調号および拍子記号

3-4

調号は、墨字のようにどの音に付くかを表すのではなく、フラットやシャープの数を表す。調号に 4 つ以上の記号が必要な時は、数符を使う。例 3-8 を参照せよ。



3-5

調号の次に書かれている音符には、音列記号が必要である。もし、調号の後に拍子記号が続かないならば、1 マスあけなくてはならない。

3-6

墨字の拍子記号が上下の数字で表されている時、点字では初めに数符を書き、正規の数字と下がり数字を使う。数字が1つのみの拍子記号には正規の数字を使う。他のタイプの拍子記号においても、墨字にきちんと従う。

表 3 B の記号

⠠⠠	C	“普通の拍子”	
⠠⠠	縦線のある C	“切られた拍子”	
⠠⠠⠠	⠠⠠⠠⠠	2つの数字を使った拍子記号	
⠠⠠	4 (あるいは他の数字)	1つの数字による拍子記号	

3-7

拍子記号の後は1マス空けて、その次の音には音列記号を付けなくてはいけない。

3-8

調号と拍子記号の組み合わせ方は、国によってマス空けしたり、しなかったりする。



例 3-8

⠠⠠	⠠⠠⠠	シャープ1つ、4分の3拍子
⠠⠠⠠	⠠⠠⠠	フラット4つ、4分の4拍子

3-9

調性や拍子の片方、あるいは両方が変わる時には、墨字の通りにきちんと従わなくてはならない。このような場合には前後を1マスずつ空け、次の音には音列記号が必要である。

例 3-9

⠠⠠⠠⠠⠠⠠	
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	

3-10

拍子記号の中に音符が使われている場合は、音の前置符の 6 と 3 の点を付け、ドの音を使ってその音価を表す。

例 13-18 を参照せよ。

3-11

それ以外の一般的ではない拍子記号は、例 13-19 に示してある。